

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ： 報告数は3件(前月比 0. 5、前年同月比 なし)でした。熊本1件、水俣1件、有明1件の報告で、3歳1件、10～14歳2件の報告でした。

小児科定点

(全体傾向)

報告数は2, 353件（前月比 0. 9、前年同月比 0. 7）と前月より減少しました。ヘルパンギーナ（前月比 0. 3）の減少が目立ちますが、報告数では感染性胃腸炎（前月比 0. 8）、咽頭結膜熱（前月比 0. 8）、A群溶連菌咽頭炎（前月比 0. 8）の減少も反映されています。急激に増加しているのがRSウイルス感染症（前月比 10. 0、前年比 3. 6）です。これからの冬期に向かって増加が予想され注意が必要です。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症：478件（前月比 10. 0、前年同月比 3. 6）でした。8月から例年に見られない早い報告でしたが、9月に入って激増し、すでに昨年12月のピーク時の報告を超えています。有明、熊本からの報告が目立ちます。
2. 咽頭結膜熱：137件(前月比 0. 8、前年同月比 2. 8)でした。3月から例年を上回る100件前後の報告が続き8月には175件の報告でしたが、9月はやや減少していますが今後の推移に注意が必要です。熊本からの報告が多く、6歳以下の報告が過半数です。
3. A群溶レン菌咽頭炎：91件(前月比 0. 8、前年同月比 0. 7)でした。6月から減少傾向が続いています。この2年間ずっと月毎の報告数が前年を上回る経過が続いていましたが、9月になって初めて2年間の同月報告数を下回りました。
4. 感染性胃腸炎：796件(前月比 0. 8、前年同月比 0. 8)でした。1月から減少傾向が続いています。例年報告数の少ない時期です。有明（38. 2）、山鹿（34. 5）からの報告が目立ちます。
5. 水痘：125件(前月比 0. 9、前年同月比 1. 1)でした。今年に入ってから報告は3月を除き例年以下で推移し、減少傾向が続いています。八代、水俣からの報告が多いです。
6. 手足口病：68件(前月比 1. 2、前年同月比 0. 09)でした。夏期の流行が見られず、少数の報告で推移しています。昨年と比し、夏の流行が非常に少なかったです。
7. 伝染性紅斑：8件(前月比 0. 8、前年同月比 0. 2)でした。昨年8月よりずっと少数の報告数が続いています。
8. 突発性発しん：194件(前月比 0. 9、前年同月比 0. 9)でした。特記すべき変化はみられません。
9. 百日咳：3件（前月比 1. 5、前年同月比 —）でした。熊本1件、人吉2件の報告で、1歳1件、15～19歳1件、20歳以上1件の報告です。

10. ヘルパンギーナ： 130件（前月比 0.3、前年同月比 0.4）でした。例年同様に7月をピークに減少に転じる報告でした。8月からさらに半減以下となりました。しかし天草からの報告は多いです。

11. 流行性耳下腺炎： 102件（前月比 0.7、前年同月比 0.3）でした。今年に入り、少ない報告数で推移し、減少傾向が続いています。宇城、天草からの報告が多いようです。1～14歳の報告です。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数 2件（前月比 1.0、前年同月比 2.0）、熊本からの報告です。

2. 流行性角結膜炎： 報告数 65件（前月比 0.4、前年同月比 0.7）と先月より半減していますが、日常活動が活発な20～39歳に多発しており、まだ感染が広がる恐れもあります。地域別では、熊本56件、菊池 5件、有明 2件、宇城 1件、天草 1件の報告です。

STD定点

1. 性器クラミジア感染症：報告数 31件（前月比 0.7、前年同月比 0.4）でした。前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、女性が28件と圧倒的に多く見られます。年齢別は、女性は15～29歳に22件と多く、男性では15～34歳に見られています。地区別は、熊本 24件と圧倒的に多く、次いで山鹿3件、御船2件、八代、宇城に各1件でした。

2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 24件（前月比 1.3、前年同月比 1.4）でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、女性が18件と多く、年齢別では、女性では15～70歳以上、男性でも、25～59歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が17件と圧倒的に多く、次いで八代4件、御船2件、宇城1件でした。

3. 尖圭コンジローマ： 報告数は 7件（前月比 2.3、前年同月比 1.2）でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に4件とやや多く見られています。年齢別は、男性では15～49歳に、女性では15～24歳に見られています。地区別は、熊本4件、宇城2件、八代1件でした。

4. 淋菌感染症： 報告数は3件（前月比 0.2、前年同月比 0.2）でした。前月比、前年同月比とも著明に減少しています。男女別は、女性に2件と多く見られています。年齢別は、女性は15～19歳に、男性では20～24歳に見られています。地区別は、熊本3件でした。

基幹定点

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件（前月より -3、前年同月に同じ）でした。

2. 無菌性髄膜炎： 報告数2件（前月比 0.5、前年同月比 0.4）でした。

3. マイコプラズマ肺炎：報告数16件（前月比 0.6、前年同月比 0.9）でした。依然、昨年同様、例年より多く見られています。

4. クラミジア肺炎： 報告数1件（前月比 1.0、前年同月に同じ）でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数61件(前月比 1. 1、前年同月比 0. 8)でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数6件(前月比 3. 0、前年同月比 3. 0)でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はありませんでした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症：
報告はありませんでした。

届け出対象感染症

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| 1類感染症： | 報告はありませんでした。 |
| 2類感染症： | 結核：36件 |
| 3類感染症： | 腸管出血性大腸菌感染症：6件 |
| 4類感染症： | 日本紅斑熱：2件
日本脳炎：1件
レジオネラ症：2件 |
| 5類感染症(全数把握)： | 後天性免疫不全症候群：1件
梅毒：1件 |